

ドイチェ・ライフ・プラン 70

追加型投信/内外/資産複合

月次報告書



基準日：2025年4月30日

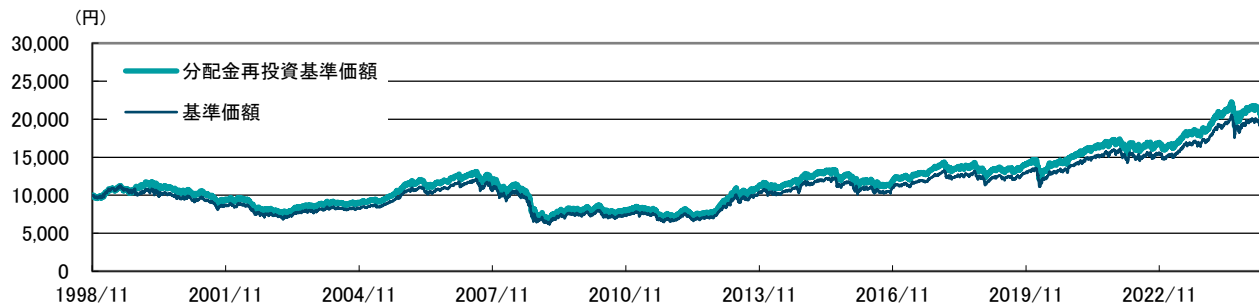
設定・運用：ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

1. 基準価額の推移と騰落率

(2025年4月30日現在)

基準価額	18,415 円
純資産総額	7.8億円

【基準価額の推移】



※分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を再投資したものと計算しております。ただし、設定来の分配金が0円のファンドにつきましては基準価額と重なって表示されております。

※基準価額の推移は、信託報酬控除後の価額を指数化して表示しております。

騰落率(税引前分配金再投資)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	設定来
ファンド	-2.13%	-7.65%	-5.42%	-3.82%	21.34%	49.29%	99.69%
ベンチマーク	-1.02%	-5.28%	-3.21%	-	-	-	-

上記ベンチマークは、ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が、国内債券（NOMURA-BPI総合）、国内株式（TOPIX（東証株価指数：配当込み））、外国債券（JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・グローバル（除く日本））、外国株式（MSCIコクサイ指数（配当込み））、現預金等（無担保コール・レート）をそれぞれ中立配分で加重して計算したもので、2024年8月31日の外国債券ベンチマークの変更に降のリターンを表示しています。

税引前分配金実績(一万口あたり)

	第19期	第20期	第21期	第22期	第23期	第24期	第25期	第26期
分配金	0	0	0	0	0	0	0	0

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

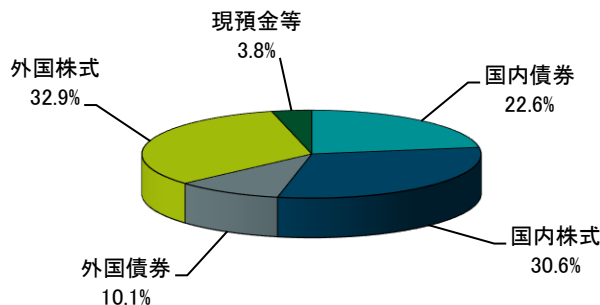
分配金累計：850 円

2. 資産配分状況

【基本アセット・ミックス】

	ファンド	中立配分	差異
国内債券	22.6%	26.0%	-3.4%
国内株式	30.6%	29.0%	1.6%
外国債券	10.1%	10.0%	0.1%
外国株式	32.9%	32.0%	0.9%
現預金等	3.8%	3.0%	0.8%
合計	100.0%	100.0%	-

【ファンドの資産構成比】



* 中立配分は、原則として3～5年に一度見直しされ変更されることがあります。

* 上記比率はファンドの純資産総額比率です。

【ドイツ・日本債券マザー】

【基準価額とベンチマークの推移】



【注】

- * 各構成比はドイツ・日本債券マザーの純資産総額に対する比率であり、ファンド全体での実質組入比率とは異なります。
- * ドイツ・日本債券マザーのベンチマークはNOMURA-BPI総合です。
- * ベンチマークは設定日の前日を10,000として指数化して表示しています。
- * 種別区分はBPI種別に変動利付国債セクターを加えた、当社独自の区分によります。

騰落率(税引前分配金再投資)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	設定来
マザーファンド	0.5%	-1.1%	-2.5%	-2.9%	-7.5%	-9.9%	32.8%
ベンチマーク	0.6%	-1.1%	-2.6%	-3.1%	-7.6%	-9.9%	30.3%

【組入れ上位10銘柄】

銘柄数：16

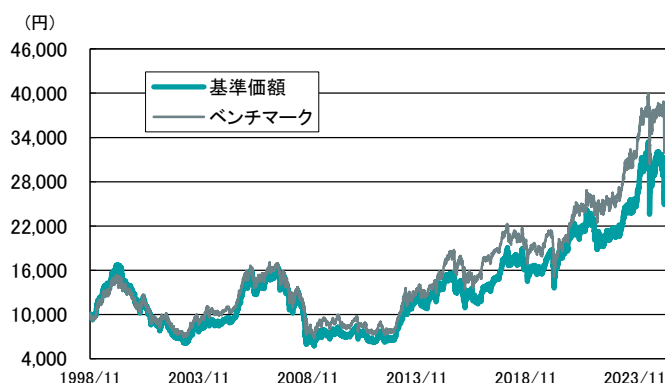
	銘柄名	クーポン	償還日	構成比
1	第141回利付国債(20年)	1.70%	2032/12/20	13.4%
2	第120回利付国債(20年)	1.60%	2030/6/20	10.9%
3	第174回利付国債(20年)	0.40%	2040/9/20	7.5%
4	第99回利付国債(20年)	2.10%	2027/12/20	7.5%
5	第184回利付国債(20年)	1.10%	2043/3/20	7.1%
6	第47回利付国債(30年)	1.60%	2045/6/20	6.0%
7	第149回利付国債(20年)	1.50%	2034/6/20	5.7%
8	第347回利付国債(10年)	0.10%	2027/6/20	5.5%
9	第363回利付国債(10年)	0.10%	2031/6/20	5.3%
10	第345回利付国債(10年)	0.10%	2026/12/20	4.9%
上位10銘柄の合計				73.6%

【種別構成比】

	債券種別	構成比
1	国債	96.5%
2	政保債	0.0%
3	地方債	0.0%
4	金融債	0.0%
5	事業債	0.0%
6	円建外債	0.0%
7	変動利付国債	0.0%

【ドイツ・日本株式マザー】

【基準価額とベンチマークの推移】



【注】

- * 各構成比はドイツ・日本株式マザーの純資産総額に対する比率であり、ファンド全体での実質組入比率とは異なります。
- * ドイツ・日本株式マザーのベンチマークはTOPIX(東証株価指数:配当込み)です。
- * ベンチマークは設定日の前日を10,000として指数化して表示しています。
- * 業種は東証33業種分類によるものです。

騰落率(税引前分配金再投資)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	設定来
マザーファンド	-0.3%	-6.2%	-1.6%	-2.4%	45.4%	78.0%	195.0%
ベンチマーク	0.3%	-3.3%	0.3%	-0.3%	51.4%	105.2%	272.2%

【組入れ上位10銘柄】

銘柄数：56

	銘柄名	構成比
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	5.6%
2	三菱重工業	4.4%
3	ソニーグループ	4.3%
4	任天堂	4.3%
5	東京海上ホールディングス	4.2%
6	ファーストリテイリング	3.9%
7	光通信	3.3%
8	スズキ	3.2%
9	良品計画	3.1%
10	日立製作所	3.0%
上位10銘柄の合計		39.2%

【組入れ上位10業種】

	業種	構成比
1	電気機器	16.9%
2	情報・通信業	12.3%
3	銀行業	10.1%
4	その他製品	8.1%
5	機械	8.1%
6	小売業	7.0%
7	輸送用機器	5.9%
8	卸売業	5.4%
9	保険業	4.2%
10	非鉄金属	3.5%

【ドイツ・外国債券マザー】

【基準価額の推移】



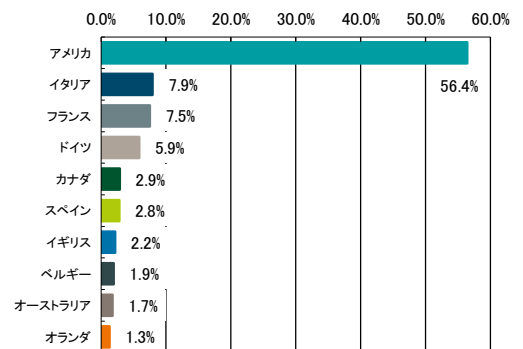
【注】

- * 各構成比はドイツ・外国債券マザーの純資産総額に対する比率であり、ファンド全体での実質組入比率とは異なります。
- * ドイツ・外国債券マザーのベンチマークはJPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・グローバル（除く日本）で、2024年8月31日のベンチマーク変更以降のリターンを表示しています。

騰落率(税引前分配金再投資)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	設定来
マザーファンド*	-2.3%	-3.1%	-4.5%	-3.6%	11.9%	21.9%	146.3%
ベンチマーク	-1.9%	-2.7%	-3.7%	-	-	-	-

【国別配分上位10ヶ国】



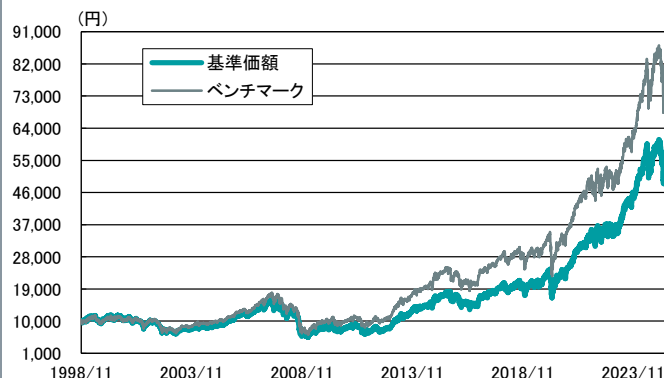
【組入れ上位10銘柄】

銘柄数：25

	発行国	銘柄名	クーポン	償還日	構成比
1	アメリカ	UST 1.5% 08/15/26	1.500%	2026/8/15	10.0%
2	アメリカ	UST 2% 08/15/25	2.000%	2025/8/15	6.2%
3	アメリカ	UST 4.25% 05/15/39	4.250%	2039/5/15	6.1%
4	アメリカ	UST 2.75% 02/15/28	2.750%	2028/2/15	6.1%
5	イタリア	BTPS 1.5% 06/01/25	1.500%	2025/6/1	5.9%
6	アメリカ	UST 0.625% 05/15/30	0.625%	2030/5/15	5.3%
7	ドイツ	DBR 4% 01/04/37	4.000%	2037/1/4	4.0%
8	フランス	FRTR 4.5% 04/25/41	4.500%	2041/4/25	3.9%
9	アメリカ	UST 3.625% 08/15/43	3.625%	2043/8/15	3.6%
10	フランス	FRTR 6% 10/25/25	6.000%	2025/10/25	3.6%
上位10銘柄の合計					54.6%

【ドイツ・外国株式マザー】

【基準価額とベンチマークの推移】



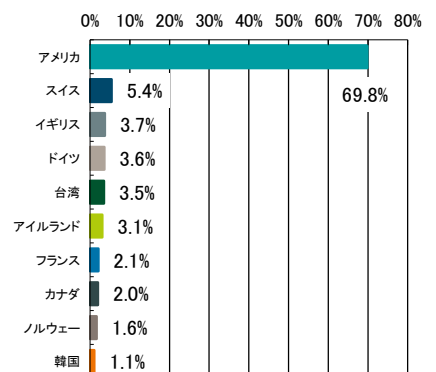
【注】

- * 各構成比はドイツ・外国株式マザーの純資産総額に対する比率であり、ファンド全体での実質組入比率とは異なります。
- * ドイツ・外国株式マザーのベンチマークはMSCIコクサイ指数（配当込み）です。
- * ベンチマークは設定日の前日を10,000として指数化して表示しています。
- * 業種はMSCI/S&P GICS（世界産業分類基準）によるものです。

騰落率(税引前分配金再投資)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	設定来
マザーファンド*	-5.4%	-14.0%	-9.6%	-1.9%	49.4%	152.9%	419.3%
ベンチマーク	-4.2%	-12.5%	-8.2%	0.9%	52.9%	163.8%	651.8%

【国別配分上位10ヶ国】



【組入れ上位10銘柄】

銘柄数：71

	銘柄名	構成比
1	ALPHABET INC-CL A	5.0%
2	MICROSOFT CORPORATION	4.9%
3	VISA INC-CLASS A SHARES	4.1%
4	META PLATFORMS INC-A	4.1%
5	BOOKING HOLDINGS INC	3.7%
6	TAIWAN SEMICONDUCTOR-SP ADR	3.5%
7	APPLE INC	2.9%
8	AUTOZONE INC	2.3%
9	JP MORGAN CHASE&CO	2.2%
10	NESTLE SA-REG	2.2%
上位10銘柄の合計		35.0%

【組入れ上位10業種】

	業種	構成比
1	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	10.8%
2	メディア・娯楽	9.6%
3	金融サービス	9.3%
4	ソフトウェア・サービス	8.2%
5	半導体・半導体製造装置	7.9%
6	一般消費財・サービス流通・小売り	7.3%
7	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	7.1%
8	保険	6.7%
9	銀行	6.7%
10	ヘルスケア機器・サービス	4.7%

ファンド・マネジャーのコメント

1. 今月の投資環境

【日本債券】

4月の日本の10年国債利回り(以下、長期金利*)は低下(価格は上昇)しました。月初は、米政権の相互関税措置の発表を背景に市場のリスク回避姿勢が強まる中、安全資産としての国債需要が高まり、長期金利は低下しました。その後は、米政権が相互関税措置を90日間停止すると発表したことを受けて、関税政策に対する懸念が幾分か和らぎ、金利は低下幅をやや縮小しましたが、景気の先行き不透明感や日銀利上げ観測の後退もあり、月末にかけて金利は方向感を欠く展開となりました。

【日本株式】

4月の国内株式市場の騰落率はTOPIX(配当込みベース)で+0.33%となりました。上旬は、米国による相互関税の発表と中国による報復関税の表明を受けた世界景気の減速懸念から株価は急落しましたが、その後は、トランプ米政権が中国以外に対する相互関税の発動を延期し、各国との通商交渉を重視する姿勢を示したことや、トランプ大統領が、金融政策を批判してきた米連邦準備制度理事会(FRB)パウエル議長の解任を考えていないと述べたことなどから、市場の不安心理は徐々に後退し、株式市場は戻りを試す展開となりました。

【外国債券】

4月の主要国の長期金利は、米国、欧州(ドイツ)ともに低下(価格は上昇)しました。米国では、トランプ大統領が大規模な相互関税を発表したことや、米中対立の激化を背景に、景気下振れリスクやインフレ再燃リスクが意識されました。また、トランプ大統領がパウエル議長批判を行ったこと等を受け、金利は一時大きく上昇しましたが、相互関税発動の延期や、大統領が議長解任を否定したことを受け金利は低下しました。欧州では、欧州中央銀行(ECB)が経済見通し悪化を背景に追加利下げを決定し、一段の利下げの可能性を示唆したことから、金利は低下しました。欧州周縁国国債の長期金利についても、ドイツの金利低下の流れを受けて低下しました。

【外国株式】

4月の世界株式市場は値動きの激しい展開となりました。引き続きトランプ米政権の関税政策が市場の主な関心事となるなか、月初にトランプ米大統領から市場の想定よりも厳しい相互関税が発表され、貿易戦争激化による経済成長鈍化への懸念が高まり、株価は大きく下落しました。月半ばには、相互関税の上乗せ部分の一時停止等が好感されて一時的に反発しましたが、景気後退懸念が残るなか上値の重い展開となりました。月後半には米中貿易戦争を巡る緊張緩和の動きが見られたことや、企業の好決算等が相場を押し上げました。為替市場では、対米ドルでは円高が進み、対ユーロでは円は横ばいでした。

2. 今月の投資行動

【日本債券】

利回り水準や市場動向を踏まえ、デュレーション*については月末時点でベンチマークよりやや長めとしました。年限別では、短期及び超長期年限をオーバーウェイトとし、中期年限をアンダーウェイトとしました。資産別では、国債をオーバーウェイト、地方債や事業債などをアンダーウェイトとしています。

【日本株式】

米国の関税政策を巡る不透明感が漂う中、ポートフォリオのベータ値を引き下げることが適切であると考え、機械株などを売却しました。その一方で、関税政策の影響を受けにくく、円高時に株価が堅調に推移する傾向のある銘柄や構造改革の成果が期待される銘柄等を購入しました。

【外国債券】

地域別では、欧米中銀の追加利下げの可能性も見込んでいた一方で、トランプ関税やドイツの財政拡大の可能性等は変動要因と考えていました。こうした中、米国についてはアンダーウェイトとし、ユーロ圏についてはイタリア、スペイン等をオーバーウェイトとし、ユーロ圏全体でオーバーウェイトとしました。また、カナダをオーバーウェイトとし、英国はアンダーウェイトとしました。デュレーションについては、財政悪化やトランプ政策を受けたインフレの再燃に対する市場の警戒もあることや、金融政策の不透明感も継続していることから、金利が変動する可能性も勘案し、短めで維持しました。

【外国株式】

当月は、米国の関税政策を巡る動向、経済指標や企業決算等をにらみつつ、静観としました。

※上記コメントは、「ドイチェ・日本株式マザー」、「ドイチェ・日本債券マザー」、「ドイチェ・外国株式マザー」、「ドイチェ・外国債券マザー」に関するものです。

3. 今月の付加価値の源泉

【日本債券】

短期及び超長期年限をオーバーウェイト、中期年限をアンダーウェイトとしたポジションは、年限の配分効果はマイナス、銘柄選択効果はプラスとなりました。資産別では、国債をオーバーウェイト、地方債や事業債などをアンダーウェイトとした配分効果はマイナスとなった一方で、資産別での銘柄選択効果は限定的となりました。この結果、ファンドのリターンはベンチマークを下回りました。

【日本株式】

4月の当戦略のパフォーマンスは、ベンチマークを下回りました。

業種選択では、その他製品のオーバーウェイトなどがプラスに寄与した一方、非鉄金属のオーバーウェイトや陸運業のアンダーウェイトなどがマイナスに働きました。銘柄選択では、良品計画(小売業)や任天堂(その他製品)のオーバーウェイトなどがプラスに寄与した一方、フジクラ(非鉄金属)や三菱UFJフィナンシャル・グループ(銀行業)のオーバーウェイトなどがマイナスに働きました。

【外国債券】

為替市場では、相互関税によって米国が最も大きな影響を受けるとの警戒感が広がり、円やユーロ等の主要通貨に対する米ドル安が進行しました。このため、ユーロのオーバーウェイトはプラスになった一方、英国のアンダーウェイトはマイナスとなりました。また、4月には欧米金利が低下したことから、金利戦略では、デュレーションを短めて維持した戦略や、イールドカーブ戦略がマイナスとなりました。こうした結果、月間リターンはベンチマークを下回りました。

【外国株式】

パフォーマンスはベンチマークを下回りました。業種別では、エネルギーセクターのアンダーウェイト等がプラスに寄与した一方、ヘルスケアや金融セクターにおける銘柄選択等がマイナスに働きました。個別銘柄では、ブックキング・ホールディングス(米国、一般消費財・サービス)のオーバーウェイト等がプラスに寄与した一方、ユナイテッドヘルス・グループ(米国、ヘルスケア)やシュルンベルジェ(キュラソー、エネルギー)のオーバーウェイト等がマイナスに働きました。

4. 来月以降の市場見通しおよび投資戦略

【日本債券】

設備投資や個人消費が持ち直す中、雇用・所得環境の改善や政策面のサポートにも支えられ、国内経済は緩やかな回復基調が続くと見えます。一方で、国内の物価高の持続による個人消費への影響や、米国の関税政策などは国内景気のリスク要因と考えています。加えて、ウクライナ情勢などの地政学リスクも注目されます。国内債券市場は、日銀の金融政策に対する思惑や、海外金利動向等が市場の変動要因になると考えています。

デュレーションについては、国内外のインフレ動向や主要国の各種政策、経済・政局情勢等の外部環境を踏まえ、調整する方針です。また、年限別及び資産別の配分につきましては、海外市場動向や国内経済指標、地政学リスク等に留意しつつ、機動的に対応する予定です。

【日本株式】

今後の国内株式市場は、不安定な値動きが続くものの、方向感としては戻りを試す展開が続くと想定しています。4月上旬は関税を巡るトランプ大統領の政策が二転三転したことで市場には強い不安感が広がりましたが、市場の混乱が大きくなると発言を修正するという柔軟な姿勢も見られたことで、一定の安心感も出てきました。4月上旬ほどの先行き不透明感が再来するとは考えにくく、4月上旬につけた安値が当面の安値になる可能性が高いと考えています。ただし、トランプ大統領の姿勢には注意が必要です。常に新たな攻撃対象を探しているようにも見えるため、日本が通商問題でその対象とされた場合には、日本株全体に売りが出やすくなる可能性があります。需給面では、高水準の自社株買いが株価の支援材料になると見られるほか、企業業績については、2025年度の業績見通しに関税の影響がどの程度織り込まれてくるかに注目しています。運用にあたっては、業績の改善が期待でき、今後の株価上昇が期待できる銘柄を探していく方針です。

【外国債券】

トランプ政権は90日間の相互関税発動延期を発表しており、各国との協議の動向次第で金融市場は変動が続く可能性があります。もっとも、全ての国や地域に対する一律10%の関税は継続するため、世界経済の重荷になる見通しです。米国ではインフレ再燃や米景気減速懸念が強まる中で、FRBは慎重な姿勢を維持すると見込まれます。欧州では、ラガルド総裁は異例の不確実性により経済見通しは不透明になっているとし、データに依存した会合ごとのアプローチの重要性を強調しました。このため、関税協議の動向や経済指標次第では、次回会合においても追加利下げを行う可能性もあると見られます。

今後の運用については、主要国の金融政策や、各国の政治状況等を踏まえ、ポートフォリオの構築をする方針です。地域別および年限別の配分につきましては、利回り水準や市場の変動性に留意しつつ、機動的に対応する予定です。また、ポートフォリオの金利リスクについては、金融政策の動向や金利水準等を踏まえ調整することとします。

【外国株式】

FRBは、トランプ政権の高関税政策が彼らの使命である物価の安定と雇用の最大化の両立を妨げるリスクを強調しています。足元ではデータを注意深く見守りつつ、様子見のスタンスを維持していますが、高関税政策が景気の悪化を招き失業率が上昇傾向に転じれば、利下げに踏み切るとみえています。株式相場は関税政策の動向に大きく揺さぶられていますが、引き続き米国と各国の貿易交渉の行方や、経済への影響等を巡り神経質な展開が続くと思われます。ポートフォリオの構築にあたっては、リスクを考慮しながら、特に各企業のビジネスモデルや経営陣の質、利益成長、バランスシート、バリュエーションに注目し、グローバルな視点から詳細な分析を行い、銘柄を選別していく方針です。

*金利(利回り): 債券価格は金利変動の影響を受けます。一般的に金利が低下した場合には債券価格は上昇し、逆に金利が上昇した場合には債券価格は下落する傾向があります。

*デュレーション: 金利変動に対する債券価格の変動性を示します。一般的にデュレーションが長いほど金利変動に対する価格の変動が大きくなります。

※上記コメントは、「ドイチェ・日本株式マザー」、「ドイチェ・日本債券マザー」、「ドイチェ・外国株式マザー」、「ドイチェ・外国債券マザー」に関するものです。

※将来の市場環境の変動等により、上記の投資戦略が変更される場合があります。

ファンドの特色

- 1.** 国内債券・国内株式・外国債券・外国株式等へ投資する各マザーファンドへの分散投資により、リスクを低減しつつ中長期的な安定収益の獲得を目指します。
- 2.** 資産配分の中立的配分となる「基本アセット・ミックス」を決定し、一定の範囲内で資産配分の調整を行います。
- 3.** ベンチマーク(運用を評価するための指標)を定め、アクティブ運用によって、ベンチマークを上回る収益を追求します。

各ファンドのベンチマークは、委託会社が、国内債券：NOMURA-BPI総合^{※1}、国内株式：TOPIX(東証株価指数：配当込み)^{※2}、外国債券：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスグローバル(除く日本)^{※3}、外国株式：MSCIコクサイ指数(配当込み)^{※4}、現預金等：無担保コール・レートをそれぞれ中立的配分で加重して計算したものです。

※1 NOMURA-BPIは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社(以下「NFR」といいます。)が公表している指数で、その知的財産権その他一切の権利はNFRに帰属します。なお、NFRはNOMURA-BPIを用いて行われるドイチェ・アセット・マネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切の責任を負いません。

※2 TOPIX(東証株価指数)の指数値及びTOPIXにかかる標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」といいます。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用等TOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXにかかる標章または商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、TOPIXの指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。

※3 JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスグローバル(除く日本)は、JPMorgan Chase & Co.の子会社であるJ.P.Morgan Securities LLC(以下「J.P.Morgan」といいます。)が算出する債券インデックスであり、その著作権及び知的所有権は同社に帰属します。J.P.Morganは、インデックス及びそのサブインデックスが参照される可能性のある、または販売奨励の目的でインデックス及びそのサブインデックスが使用される可能性のあるいかなる商品についても、出資、保証、または奨励するものではありません。J.P.Morganは、証券投資全般もしくは本商品そのものへの投資の適否またはインデックス及びそのサブインデックスが債券市場一般のパフォーマンスに連動する能力に関して、何ら明示または黙示に、表明または保証するものではありません。

※4 MSCIコクサイ指数は、MSCIインク(以下「MSCI」といいます。)が算出する指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCIに帰属します。また、MSCIは同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。

(注)ファンドのパフォーマンスはベンチマークを上回る場合もあれば下回る場合もあり、ベンチマークは一定の投資成果を保証するものではありません。また、株式及び金融・債券市場の構造変化等によってはベンチマークを変更する場合があります。

- 4.** 原則として為替ヘッジは行わないことを基本としますが、為替変動によって為替差損が生じる可能性があるると判断した場合は、為替ヘッジを行います。
- 5.** ファミリーファンド方式^{*}で運用を行います。

^{*}「ファミリーファンド方式」とは、運用及び管理面の合理化・効率化をはかるため、投資者から集めた資金をまとめてベビーファンドとし、その資金を主としてマザーファンドに投資して実質的な運用を行う仕組みです。

(注)市況動向及び資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元金が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。当ファンドに生じた利益及び損失は、すべて投資者に帰属します。基準価額の変動要因は、以下に限定されません。なお、当ファンドは預貯金と異なります。

① 株価変動リスク

株価は、政治経済情勢、発行企業の業績、市場の需給等を反映して変動し、短期的または長期的に大きく下落することがあります。これによりファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。

② 金利変動リスク

債券価格は、通常、金利が上昇した場合には下落傾向となり、金利が低下した場合には上昇傾向となります。したがって、金利が上昇した場合には、保有している債券の価格は下落し、ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。

③ 信用リスク

株価及び債券価格は、発行者の信用状況等の悪化により下落することがあり、これによりファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。

④ 為替変動リスク

外貨建資産の価格は、為替レートの変動の影響を受けます。外貨建資産の価格は、通常、為替レートが円安になれば上昇しますが、円高になれば下落します。したがって、為替レートが円高になれば外貨建資産の価格が下落し、ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。

⑤ 流動性リスク

急激かつ多量の売買により市場が大きな影響を受けた場合、または市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、機動的に有価証券等を売買できないことがあります。このような場合には、当該有価証券等の価格の下落により、ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。

その他の留意点

・各資産への投資配分(各マザーファンド受益証券への投資配分)は、「基本アセット・ミックス」を中立的配分とし、一定の変更限度内で調整を行いますが、相対的に収益率の劣る資産への投資配分を増やすことにより中立的な投資配分をした場合より基準価額のパフォーマンスが劣る場合があります。

・マザーファンドを投資対象とする他のベビーファンドの購入申込みまたは換金申込み等により、当該マザーファンドにおいて売買が生じた場合等には、当ファンドの基準価額が影響を受けることがあります。

・当ファンドは、大量の換金が発生し短期間で換金代金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込みの受付が中止となる可能性、換金代金の支払いが遅延する可能性等があります。

・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

・分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があり、その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

8/10

当ファンドの販売会社は以下の通りです。

(五十音順)

金融商品取引業者名		登録番号	加 入 協 会				備考
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	
株式会社イオン銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第633号	○				委託金融商品取引業者: マネックス証券株式会社
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○	*
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○	
株式会社SBI新生銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○		委託金融商品取引業者: 株式会社SBI証券 マネックス証券株式会社
九州FG証券株式会社	金融商品取引業者	九州財務局長(金商)第18号	○				*
株式会社紀陽銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第8号	○				
株式会社 群馬銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第46号	○		○		
株式会社京葉銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第56号	○				*
株式会社佐賀銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第1号	○		○		*
株式会社十六銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第7号	○		○		*
株式会社 荘内銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第6号	○				*
株式会社 常陽銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第45号	○		○		*
株式会社第四北越銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第47号	○		○		*
大和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第108号	○	○	○	○	*
株式会社南都銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第15号	○				*
株式会社 西日本シティ銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第6号	○		○		*
株式会社八十二銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第49号	○		○		
株式会社肥後銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第3号	○				*
株式会社 百五銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第10号	○		○		
百五証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第134号	○				
株式会社広島銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第5号	○		○		*
株式会社北海道銀行	登録金融機関	北海道財務局長(登金)第1号	○		○		
株式会社 北國銀行	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第5号	○		○		*

※備考欄に*の表示がある場合、購入申込の取扱いを中止しております。詳しくは販売会社にお問い合わせ下さい。

当ファンドの販売会社は以下の通りです。

(五十音順)

金融商品取引業者名		登録番号	加入協会				備考
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○	
株式会社武蔵野銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第38号	○				*
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○	

※備考欄に *の表示がある場合、購入申込の取扱いを中止しております。詳しくは販売会社にお問い合わせ下さい。